規定する評定表の評定点合計（以下「評定点合計」という。）が65点未満のもの並びに国、地方公共団体及び公共工事の入札契約適正化の促進に関する法律（平成12年11月17日法律第127号）第２条第１項の政令で定める法人（以下「他の機関」という。）が発注する工事である場合にあっては、工事成績評定が一定の点数未満であるために当該機関の競争入札において施工実績として認めていないものを除く。

なお、求める実績に対して提出できる施工実績は１件とする。（特定建設工事共同企業体及び経常建設共同企業体の構成員としての施工実績は、出資比率が20％以上の場合のものに限る。異工種の特定建設工事共同企業体の構成員としての実績は、協定書の分担工事の実績のみ同種工事の実績として認める。この場合、協定書の写しを技術評価資料に併せて提出すること。）

① 単体又は特定建設工事共同企業体（甲型）を構成する場合の代表者

求める実績

１橋あたりの橋面積1,130㎡以上の橋梁において、床版の新設又は取替を行った工事（橋梁床版は、場所打ち床版、プレキャスト床版を問わない。）

② 特定建設工事共同企業体（甲型）を構成する場合の代表者以外

求める実績

橋梁床版の新設又は取替を行った工事（橋梁床版は、場所打ち床版、プレキャスト床版を問わない。）

⑸ 配置予定の技術者等　次に掲げる基準を満たす主任（監理）技術者及び現場代理人を当該工事に専任で配置できること。ただし、経験が、中日本高速道路株式会社が発注し、しゅん功認定された工事（旧ＪＨが発注し、平成13年度以降に完成・引渡しが完了した工事を含む。）である場合にあっては、評価点合計が65点未満のもの、並びに国、地方公共団体及び他の機関が発注した工事である場合にあっては、工事成績評定が一定の点数未満であるために当該機関の競争入札において施工実績として認めていないものを除く。

なお、専任を要する期間は、工事現場が稼働（準備工を含む。）している期間とする。

① 主任（監理）技術者にあっては、現場代理人、主任（監理）技術者及び専門技術者の届けの提出時に監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了書を有する者又はこれに準ずる者であること。なお、「これに準ずる者」とは、以下のものをいう。

・平成16年２月29日以前に交付を受けた監理技術者資格者証を有する者。
・平成16年２月29日以前に監理技術者講習を受けた者であって、平成16年３月１日以後に監理技術者資格者証の交付を受けた者である場合には、監理技術者資格者証及び指定講習受講修了証を有する者。

② 主任（監理）技術者が１級土木施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。なお、これらの事項は契約締結後、特記仕様書に基づき技術者届により監督員が確認する。

③ 専任の主任（監理）技術者を配置する場合にあっては、入札参加希望者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。なお、恒常的雇用関係とは、競争参加資格確認資料提出日以前に３ヶ月以上の雇用関係にあることをいう。

④ 現場代理人又は主任（監理）技術者が元請としてしゅん功認定された、次に示す同種工事の経験を有すること。（特定建設工事共同企業体及び経常建設共同企業体の構成員としての施工実績は、出資比率が20％以上の場合のものに限る。異工種の特定建設工事共同企業体の構成員としての実績は、協定書の分担工事の実績のみ同種工事の実績として認める。この場合、協定書の写しを工事実績と併せて提出すること。）。なお、現場代理人としての実績においては、この限りではない。なお、これらの事項は契約締結後、特記仕様書に基づき技術者届により監督員が確認する。

求める経験

床版の新設又は取替を行った工事（橋梁床版は、現場打ち床版、プレキャスト床版を問わない。）、若しくはＰＣ上部工又は鋼上部工の新設を実施した工事。

複数の主任（監理）技術者を配置する場合で、製作工に係る工事の経験を有する主任（監理）技術者は、製作工が稼動している期間工場に配置するものとし、架設工に係る工事の経験を有する技術者は、工事現場が稼動している期間現場に配置するものとする。

⑤ 設計管理技術者及び照査技術者については、入札参加希望者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者とし、下記のいずれかの要件に該当する者で、日本語に堪能（日本語通訳が確保できれば可）でなければならない。これらの事項は契約締結後、特記仕様書に基づき技術者届により監督員が確認する。

㋐ 技術士［建設部門「鋼構造及びコンクリート」］の資格保有者又はこれと能力を有する技術者。

㋑ 技術士［総合技術監理部門「鋼構造及びコンクリート」］の資格保有者

㋒ ＲＣＣＭ［鋼構造及びコンクリート部門］の資格保有者

㋓ 土木学会認定土木技術士（鋼・コンクリート分野に係る特別上級土木技術者、上級土木技術者又は１級土木技術者（コースＡ））

なお、外国資格を有する技術者（わが国及びＷＴＯ政府調達協定国その他建設市場が開放的であると認められる国等の業者に所属する技術者に限る。）は、あらかじめ技術士相当との旧建設大臣認定又は国土交通大臣認定を受けている必要がある。

⑹ 競争参加資格確認申請書及び競争参加資格確認資料の提出期限の日から開札の日までの期間に、「中日本高速道路株式会社工事・調査等の資格登録に関する要領」に基づき、「地域２」において、資格登録停止を受けていないこと。

⑺ 特定建設工事共同企業体を構成する場合は、次に掲げる事項を満たしていること。

① 各構成員が当該工事に対応する建設業法（昭和24年法律第100号）の許可業種につき、許可の営業年数が５年以上あること。ただし、相当の施工実績を有し、確実かつ円滑な共同施工が確保できると認められる場合においては、許可を有しての営業年数が５年未満であってもこれを同等として取扱うことができるものとする。

② 各構成員が配置する専任の監理技術者又は主任技術者は当該工事に対応する建設業法の許可業種に係る資格のうち１級土木施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有するものであること。

③ 中日本高速道路株式会社が別に定める特定建設工事共同企業体協定書（甲）による協定書（案）が提出されていること。

④ 特定建設工事共同企業体（甲型）で申請する場合の各構成員の出資比率は、２者で構成される場合にあっては30％以上であることとし、代表者の出資比率は構成員中最大であること。

⑻ 当該工種について、中日本高速道路株式会社での令和３・４年度における各年度の工事成績の平均点が２年連続で65点未満でないこと。ただし、各年度の実績がない場合は65点とする。

⑼ 記１に示した工事に係る設計業務等の受注者又は当該受注者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者でないこと。

⑽ 入札に参加しようとする者の間に資本関係又は人的関係がないこと。（入札説明書参照）

３　総合評価落札方式に関する事項

⑴ 総合評価落札方式の仕組み　本工事の総合評価落札方式は、企業の施工実績及び簡易な施工計画から付与する技術評価点と、入札書の価格により算定される価格評価点とを加算した総合評価点が最も高い者を落札者とする総合評価落札方式である。

具体の技術的要件及び入札時の評価に関する基準については、以下に示すとおり。

⑵ 技術評価項目及び技術評価指標

ア）企業の評価について

評価項目：

① 企業体制

品質管理・環境マネジメントシステムの取組状況

評価指標：

ＩＳＯ9001、ＩＳＯ14001の認証状況について評価

優：ＩＳＯ9001、ＩＳＯ14001の両方を認証取得済

良：ＩＳＯ9001、ＩＳＯ14001のいずれかを認証取得済

可：未取得

評価項目：

② 施工実績

平成20年度以降の工事の施工実績